

平成29年2月9日

各 位

本來寺住職 廣澤成照

地縁 いのちの集い(第三回)

今年は何十年振りの大雪に見舞われた大山地区でございました。雪に因る被害もあちこちで聞かれ、本來寺も樋の全てが歪み壊れ その上いまだかつてない量の雪かきで重労働を体験し雪国の人達のご苦勞が如何ばかりであるかという事を少しですが実感いたしました。

人間は哀しいことですが何事も自分の実体験した所でしか本当の所は理解出来ぬものです。

近年、異常気象 著しい人間性の歪みなど あらゆる事柄で「異常」と言われて久しいですが、私達は知らず知らずのうちに その異常を日常的に体験しつつも その事にしっかりと目を向けて危機意識を持たぬまま「これからどうなるだろう」「なんとかなるだろう」との漠然とした想いを抱えながら暮らしているのが現状ではないでしょうか。

今回お迎えいたします両講師は、こうした問題点を明らかにし明日への方向性を示して下さる事と思えます。次世代に希望と未来を残せるよう共に学び共に考えていけたらと思っております。

共に誘い合わせて ご参加下さいませ。

本來寺 住職

演 題	「人類生存の危機に当たって考えること」
講 師	京都大学名誉教授 内藤 正明
演 題	「在来野菜(伝統野菜)の種を採るのはなぜ？」
講 師	お米の勉強会 代表 村山 日南子
日 時	平成29年3月5日(日) 午後1時～4時30分 質疑応答・途中休憩あり
場 所	本來寺 篠山市大山上12-1 ☎079-596-0706 参加費無料

・地縁とは、住む土地に基づく縁故関係をいい、又 その縁を尊ぶ事をいいます。